

《Hearing test》

❖ これから、聴力検査をします。この椅子にお座りください。

→ Now I would like to check up your acoustical function. Please, sit down here.

❖ 検査は二種類あります。

→ Two kinds of examinations you will have.

《Air conduction》

❖ まず、1つ目の検査をします。

→ Are you ready for the first one? Almost, it does the 1st test. 1

❖ 検査は片耳ずつ行います。

→ Hearing ability of the ears will be check one by one.

❖ スイッチを渡しますので、『ピーピー』や『ポーポー』という信号音が聞こえ始めたら、スイッチを押してください。

→ Turn the switch on immediately when you catch mechanical sounds such as “pee-pee” or “poh-poh”.

❖ 信号音が聞こえている間はスイッチを押したままにしてください。

→ Hold on all the while you can hear the sounds..

❖ 信号音が聞こえなくなったらスイッチを離してください。

→ Turn the switch off soon after you cannot catch them..

❖ 音の高さは、低いものから高いものまであります。

→ Not only low sounds but also high ones are to be checked up

❖ では右耳(左耳)から検査を初めます。

→ Let us begin with the right side.

【Bone conduction】

❖ ヘッドホンを替えます。

→ From now on, please use the other hearing device.

❖ 今度は、耳の後側、骨の上に着けた側の耳から音が聞こえます。

→ This time, you can hear sounds from the retroauricular are on which side the device is set up.

❖ 反対側の耳には『ザー』や『ポー』といった音が聞こえますが、スイッチを押さないでください。

→ You can hear sounds such as “za” or “bo” on the contra-lateral side, but keep the switch off.

❖ まず、右耳(左耳)から始めます。

→ Let us begin with the right side.

❖ 同じように『ピーピー』や『ポーポー』という信号音が聞こえ始めたら、スイッチを押してください。

→ Turn the switch on immediately when you catch mechanical sounds such as “pee-pee” or “poh-poh” as you have done

❖ 沢山の励ましのお便りありがとうございます。今回は耳鼻科領域の英会話です。【小松京子】

◇ 前号<JAMT 第8号>の「人間としての基礎的技能！」は出来ましたか？

◇ 『あなたは、次の“人間としての基礎的技能”の順番をどう付けますか？重要な事項より順に並べなさい。』

①読解力ー読む、②記述力ー書く、③聴覚理解力ー聞く、④言語表現力ー話す<プレゼンテーション力>、⑤論理的思考能力ー考える、⑥英語力、⑦体力、⑧芸術的感性ー感じる、⑨コンピューター力、⑩生活力、⑪心』という問題でした。

◇ この問題は、現在の医療に起きている変革にどのように対応し乗り切っていくかというアドバイスをまとめたものの一つです。さて、その順番ですが、①から⑪までの中で⑥以降を一番に付けた人はいないと思いますが？…正解です。では、①から⑤を並べ替えて下さい…読む・書く・聞く・話す・考える…難問かもしれません？<会員から質問が寄せられました>

◇ 医療の現場における「文章」は科学的文体で書くのが当たり前ですが、はたしてカルテや検査結果はどのように書かれているのでしょうか？厚労省の思惑どおり、医師以外の病院関係者が記述したら科学的文体よりも文学的文体…ましてや口語体での記載にならないか心配ですね。えっ！今のカルテだって“文学的”が多いですか？仰るとおりと言えそうです。

◇ ところで、最近の映画は、公開時からすでに“吹き替え版”が上映されるそうです。漢字が読めない、字幕に付いていけない若者が増えたことが大きな理由として挙げられています。かつては、映画が生英語に触れることの出来る格好の教材だったはずですが。ある作家が「日本語が減びるとき-英語の世紀の中で」という論文で述べています。日本語は単なる“話し言葉”として残り、これからは“英語で読むー書く”が主流になるというのです。英語は普遍的言語だからというのです。

◇ 北京五輪での選手入場は漢字で書いた国名の画数で決められたそうですが、日本開催では“五十音順”でしょうか？いや、前回のよう英語の順位になるのではないのでしょうか？「英語は国際的共通語で普遍的言語である」なんて理由でしょうか？

◇ 連載を続けている「ひとくち英会話」も、このようなことを頭に入れて活用して欲しいものです。患者さんと話す時の科学的文体と文学的文体の使い分けを間違っはなりません。市販されている医学英会話の多くは、冷たく心が通わない文章が多いとは思いませんか？

◇ ①から⑤の並べ替えは？そうです…無理に順番を付けたら、①ー②ー③ー④ー⑤です。